



2022年10月11日

各位

会社名 クオンタムソリューションズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 邵 贇
(コード番号 2338 東証スタンダード)
問合せ先 取締役管理部長 村山 雅経
TEL 03-6910-0571 (代表)

営業外収益・営業外費用の計上及び業績予想と実績値の差異

並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループの2023年2月期第2四半期連結会計期間(2022年3月1日~2022年8月31日)における営業外収益、営業外費用の計上及び2022年4月11日に公表いたしました2023年2月期第2四半期連結業績予想と実績値の差異、並びに2023年2月期通期の連結業績予想を修正することといたしましたので、以下の通りお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の内容

当社は、当社グループの在外子会社である FASTEPS SINGAPORE PTE. LTD. (以下「FS」という。)、Quantum Automotive Limited (以下「QA」という。)及びQuantum FOMM Limited (以下「QF」という。)に対して貸付けを行っておりますが、当該貸付金(FS、QA及びQFにとっては借入金)の為替相場の変動によって生じる両者の差額を為替差損益として処理しております。

当第2四半期連結会計期間においては、主にこの処理の結果、85,432千円の為替差益を計上いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における為替差益の計上額は、175,367千円となっております。

2. 営業外費用の内容

当社は、第1四半期連結会計期間において、2022年3月29日付「株式会社FOMMへの電気自動車のタイにおける製造等発注契約の締結及び資金の借入に関するお知らせ」においてお知らせしたように、電気自動車(EV)事業にかかるQFから株式会社FOMMに対して支払うEV「FOMM ONE」の製造等を委託するために必要な資金の一部を調達するため、資金の借入をFirst Link Inc Limitedからいたしました。そのため当第2四半期連結会計期間において、主に当該借入にかかる支払利息2,269千円を計上いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における支払利息の計上額は、8,558千円となっております。

3. 2023年2月期第2四半期連結業績予想数値と実績値の差異（2022年3月1日～2022年8月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	120	△160	△150	△150	△12.87
実績値 (B)	118	△199	△29	1	0.10
増減額 (B-A)	△1	△39	120	151	
増減率 (%)	△1.0%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年2月期第2四半期)	142	△179	△144	△112	△10.10

4. 連結業績差異の理由

当第2四半期連結累計会計年度において、売上に関しては、実績値と見込値で差異がほぼございませんでした。営業利益の減少額（△39百万円）は、主としてEV事業立上げのための海外子会社における人件費などの諸経費の増加によるものです。経常利益の増加額（120百万円）は、営業利益の減少額に加え、主として「1. 営業外収益の内容」及び「2. 営業外費用の内容」で記載した為替差益及び支払利息の計上等によります。親会社株主に帰属する当期純利益の増加額（151百万円）は、営業利益の減少額及び経常利益の増加額に加え、新株予約権の戻入によるものです。

5. 2023年2月期通期の連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	370	△260	△250	△250	△21.45
今回修正予想 (B)	310	△400	△230	△200	△15.99
増減額 (B-A)	△60	△140	20	50	
増減率 (%)	△19.4%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年2月期)	256	△360	△311	△280	△24.79

6. 修正の理由

今後の見通しについては、アイラッシュケア事業において2022年6月に1店舗、同年8月に2店舗の合計3店舗の不採算店を閉鎖したことに伴う売上減（△60百万円）を見込んでおります。営業利益（△140百万円）に関しては売上減に伴う売上総利益減少額（△55百万円）及び閉鎖による販管費の減少額（+40百万円）また、EV事業に係る販管費の増加額（△85百万円）並びに当第2四半期連結累計期間における業績差異を反映させて修正いたしました。また、経常利益（+20百万円）及び親会社株主に帰属する当期純利益に関しては、営業利益の減少額及び為替の影響などにより発生した当第2四半期連結累計期間における業績差異を反映して修正いたしました。

以上